

特集

# 瓦が語る東大寺の歴史

Thematic Exhibition

History Lessons from the Roof Tiles of Tōdai-ji Temple

会期 令和3年(2021)8月31日(火)~11月7日(日)

会場 東京国立博物館 本館特別2室



現在の東大寺大仏殿 (画像提供: 東大寺)



26 「東大寺正倉院」銘軒丸瓦  
27 「東大寺正倉院」銘軒平瓦

天保6年(1835)修理時の正倉院宝庫の軒瓦。



1 復弁蓮華文軒丸瓦  
8 梵字「ア」及び「東大寺大仏殿」銘軒丸瓦  
18 梵字「ア」及び「東大寺大仏殿」銘軒丸瓦

奈良時代創建時 (No.1)、鎌倉時代 (No.8) と江戸時代再興時 (No.18) の大仏殿軒丸瓦。 平成の修理後の正倉院正倉(宝庫) (画像提供: 宮内庁正倉院事務所)



東大寺は古都・奈良を代表する寺院であり、本尊の盧舎那仏は「奈良の大仏」として親しまれています。奈良時代、日本における仏教の中心地として聖武天皇により創建されました。平安時代以降、災害や兵火により、たびたび中心伽藍が焼失しましたが、鎌倉時代の重源、江戸時代の公慶ら高僧が勧進を行ない復興、再建しています。その際の屋根瓦が大切に伝えられてきました。

一方、正倉院宝庫は光明皇太后が東大寺盧舎那仏(大仏)に奉獻した聖武天皇遺愛の品や薬物を納めるため、東大寺境内に天平勝宝8年(756)に宝物庫として建造されました。奈良時代から残る数少ない建物の一つです。現代までかずかずの災禍を免れ、奈良時代の建造以降、修理のたびに葺き替えられた各時代の屋根瓦が宝物を守り続けてきました。

この特集では、東京国立博物館(以下、当館)所蔵の東大寺瓦に加え、宮内庁正倉院事務所より寄託いただいている歴代の正倉院宝庫の瓦を紹介します。東大寺の大仏殿や塔の瓦からは多くの栄華と苦難、再建の物語を、正倉院瓦からは稀少な宝物と建造物を後世に伝えようという情熱を感じていただきたいと思います。

Tōdai-ji Temple is one of the oldest Buddhist temples in Japan and is located in the ancient capital Nara. It is perhaps best known for housing a colossal statue called the “Great Buddha of Nara.” In this exhibition, Tōdai-ji Temple’s roof tiles are used to trace the temple’s fluctuating fortunes throughout history, including its multiple reconstructions.

A storehouse on the temple grounds, called the Shōsōin Repository, is famous for protecting and passing down some of Japan’s most significant cultural masterpieces. Examining the Shōsōin’s roof tiles reveals that repairs were conducted in each period of Japanese history following its initial construction. These regular repairs testify to the devotion of the temple monks to preserve the Shōsōin and its priceless treasures throughout the centuries.

## 第1章 東大寺の創建

奈良時代の天平勝宝4年(752)、大仏が完成し、大仏開眼の法要が行なわれます。大仏殿は大仏完成後に建設が始まり、天平宝字2年(758)に落成しましたが、そのほか主要な堂塔全体の建造にはおおよそ40年ほどの歳月を要しました。

創建時の瓦は、国家事業として造東大寺司という役所により生み出された「東大寺式」と呼ばれる文様が使用されています。東大寺式の瓦は、奈良時代後半、平城京の瓦作りに大きな影響を与えました。



1 復弁蓮華文軒丸瓦 3 均整唐草文軒平瓦

文様は中国・唐の影響を受けたものとされ、同時代の東大寺の仏像や金工品の装飾文様と共通する意匠がみられます。

## 鎌倉時代



8 梵字「ア」及び「東大寺」大仏殿銘軒丸瓦

梵字「ア」は本尊の大仏を表わします。東大寺復興のための資金や資材を提供した備前国で焼かれた瓦です。

11 「七」字銘蓮華文軒丸瓦

「七」の銘が鎌倉時代に七重塔が再建されたことを物語ります。

## 第2章 鎌倉の再興

治承4年(1180)、平重衡の軍勢により東大寺の主要な堂塔は灰燼に帰します。しかし翌年には高僧の重源が勲進職に任命され、復興に着手します。源頼朝をはじめとする有力者の援助もあって復興は進み、大仏開眼が行なわれたのは文治元年(1185)、大仏殿の落慶は建久6年(1195)のことでした。

再建にあたっては、資金や物資を提供する造営料国が定められました。造営料国となった備前国をはじめとする、各地の窯場から瓦が供給されたことがわかっています。まさしく瓦自体が東大寺復興の一面を物語る証拠になっています。



11

## 第3章 江戸の再興

戦国時代の永禄10年(1567)、松永久秀や三好三人衆らによる勢力争いのなか、東大寺も戦場となり、再び大仏殿や塔が失われてしまいます。再興の動きは江戸時代半ばになって始まり、のちに第2の中興開山と称される公慶の尽力に加え、第5代将軍徳川綱吉らの寄進もあったことで着々と進みました。大仏の修繕は元禄4年(1691)に完了しましたが、大仏殿の落成は公慶の死から4年経った宝永6年(1709)のことでした。この際には講堂や東西の七重塔は再建されませんでした。現在につながる景観がおおよそ整いました。



18

19

18 梵字「ア」及び「東大寺大仏殿」銘軒丸瓦  
19 梵字「ア」及び「東大寺大仏殿」銘軒平瓦

江戸時代の大仏殿の瓦は日本史上最大級の大サイズです。

## 江戸時代

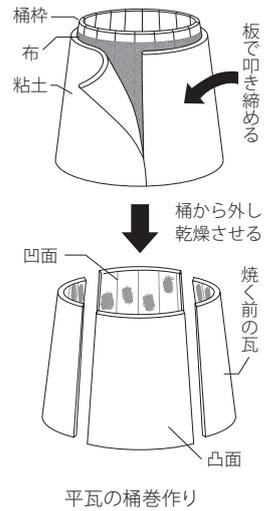
## 第4章 正倉院宝物を守り続けた瓦

正倉院宝庫は、聖武天皇遺愛の品や薬物を光明皇太后が大仏に奉獻したのを契機に建造されたため、もとは東大寺が管理する建物でした。明治8年(1875)に国の管理に移り、同17年(1884)に宮内省に移管されました。

古建築の補修では、瓦は傷んだもののみを新しいものと取り替え、古い瓦もできる限り再利用します。奈良時代の建造時の瓦はおおよそ1260年にわたり、屋根を守り続けてきました。

ここでは、平成23～26年(2011～14)にかけて行なわれた修理で屋根から降ろされ、宮内庁正倉院事務所より寄託いただいている各時代の瓦をご紹介します。

奈良時代



29 平瓦(桶巻作り)

(凹面)

奈良時代からおおよそ1260年間、宝庫の屋根を守り続けた瓦。桶に粘土を巻き付け、均等に割ることで同じ形の瓦が量産されました。平瓦は凹面を上にして屋根に葺きます。

奈良時代



30 平瓦(一枚作り)

(凹面)

奈良時代半ばから大量需要に応じ、型を使って効率的に瓦が造られました。

平安時代



31 平瓦

(凹面)

平安時代の後半には地震など災害が頻発し、修理のために瓦が葺き替えられました。

鎌倉時代



33 「東大寺」銘平瓦

(凸面)

鎌倉時代の瓦。粘土をたたき締めるために使われた板に彫られていた「東大寺」の銘文が転写されています。

〔銘文〕  
東大寺

江戸時代



22 「東大寺」銘軒丸瓦

室町時代の兵火でも焼失を免れ、大仏殿の再建に先立ち、徳川家康の指示により正倉院の修理が行なわれました。

江戸時代



35 「東大寺正倉院」銘軒平瓦

正倉院が東大寺の建物として最後に大規模な修理がなされた時の瓦です。天保6年の年号が入っています。

〔銘文〕  
天保六年乙  
瓦工平城住人  
末九月日造 三島二郎兵衛富明

(凸面)

# 瓦の重量との闘い—— 明治時代以降の大仏殿修理

江戸時代には、すでに13万枚に及ぶ瓦の重みによる大仏殿の屋根のたわみが顕著になっていました。このため、明治時代の修理では瓦を少なくする措置が取られました。さらに、昭和の修理では新たに軽量の瓦に葺き替えられています。当館で所蔵する江戸時代の大仏殿の瓦は、昭和の修理に際して屋根から降ろされ、東大寺から寄贈いただいたものです。

東大寺大仏殿 横山松三郎撮影 明治5年(1872) 重要文化財  
現在と比べると、屋根の角が下がり、軒下に支柱を加えているのがわかります。



## 作品リスト

名称	出土・伝来等	時代	所蔵／当館所蔵は列品番号(寄贈)
1 複弁蓮華文軒丸瓦	奈良市 東大寺出土	奈良時代・8世紀	J-35231
2 複弁蓮華文軒丸瓦	奈良市 東大寺出土	奈良時代・8世紀	J-35844
3 均整唐草文軒平瓦	奈良市 東大寺出土	奈良時代・8世紀	J-35384
4 均整唐草文軒平瓦	奈良市 東大寺出土	奈良時代・8世紀	J-35405
5 複弁蓮華文軒丸瓦	奈良市 東大寺 伝正倉院出土	奈良時代・8世紀	J-35266
6 唐草文軒平瓦	奈良市 東大寺 伝正倉院出土	奈良時代・8世紀	J-24210-1
7 複弁蓮華文軒丸瓦	奈良市 荒池瓦窯跡出土	奈良時代・8世紀	J-35248
8 梵字「ア」及び「東大寺大仏殿」銘軒丸瓦	奈良市 東大寺出土	鎌倉時代・12～13世紀	J-24046 (野村卯右衛門)
9 梵字「ア」及び「東大寺大仏殿」銘軒丸瓦	奈良市 東大寺出土	鎌倉時代・12～13世紀	J-24240-2
10 「七」字銘蓮華文軒丸瓦	奈良市 東大寺出土	鎌倉時代・12～13世紀	J-24240-1
11 「七」字銘蓮華文軒丸瓦	奈良市 東大寺出土	鎌倉時代・12～13世紀	J-25359-157
12 「東塔廊瓦嘉祿」銘蓮華文軒丸瓦	奈良市 東大寺出土	鎌倉時代・嘉祿年間	J-25359-158
13 「東塔廊瓦嘉祿」銘軒平瓦	奈良市 東大寺出土	鎌倉時代・嘉祿年間	J-25359-161
14 唐草文軒平瓦	正倉院伝来	鎌倉時代・12～14世紀	奈良・宮内庁正倉院事務所
15 「東御塔」銘軒丸瓦	奈良市 春日東塔跡出土	鎌倉時代・13世紀	J-23975-11
16 「西御塔」銘軒平瓦	奈良市 春日西塔跡出土	鎌倉時代・13世紀	J-23975-12
17 「興福寺」銘軒丸瓦	奈良市 興福寺出土	鎌倉時代・12～14世紀	J-23975-13
18 梵字「ア」及び「東大寺大仏殿」銘軒丸瓦	奈良市東大寺大仏殿所用	江戸時代・元禄年間	J-37515 (東大寺)
19 梵字「ア」及び「東大寺大仏殿」銘軒平瓦	奈良市東大寺大仏殿所用	江戸時代・元禄年間	J-37516 (東大寺)
20 丸瓦	奈良市東大寺大仏殿所用	江戸時代・元禄年間	J-37517 (東大寺)
21 平瓦	奈良市東大寺大仏殿所用	江戸時代・元禄年間	J-37518 (東大寺)
22 「東大寺」銘軒丸瓦	正倉院伝来	江戸時代・慶長年間	奈良・宮内庁正倉院事務所
23 「東大寺」銘軒平瓦	正倉院伝来	江戸時代・慶長年間	奈良・宮内庁正倉院事務所
24 「東大寺」銘軒平瓦	正倉院伝来	江戸時代・慶長年間	奈良・宮内庁正倉院事務所
25 「東大寺」銘軒丸瓦	正倉院伝来	江戸時代・元禄年間	奈良・宮内庁正倉院事務所
26 「東大寺正倉院」銘軒丸瓦	正倉院伝来	江戸時代・天保年間	奈良・宮内庁正倉院事務所
27 「東大寺正倉院」銘軒平瓦	正倉院伝来	江戸時代・天保年間	J-24210-2
28 丸瓦	正倉院伝来	奈良時代・8世紀	奈良・宮内庁正倉院事務所
29 平瓦(桶巻作り)	正倉院伝来	奈良時代・8世紀	奈良・宮内庁正倉院事務所
30 平瓦(一枚作り)	正倉院伝来	奈良時代・8世紀	奈良・宮内庁正倉院事務所
31 平瓦	正倉院伝来	平安時代・8～12世紀	奈良・宮内庁正倉院事務所
32 丸瓦	正倉院伝来	鎌倉時代・12～14世紀	奈良・宮内庁正倉院事務所
33 「東大寺」銘平瓦	正倉院伝来	鎌倉時代・12～14世紀	奈良・宮内庁正倉院事務所
34 丸瓦	正倉院伝来	江戸時代・天保年間	J-24210-3
35 「東大寺正倉院」銘軒平瓦	正倉院伝来	江戸時代・天保年間	奈良・宮内庁正倉院事務所

嘉祿年間(1225～27)、慶長年間(1596～15)、元禄年間(1688～1704)、天保年間(1830～44)



特集 瓦が語る東大寺の歴史

令和3年8月31日発行

執筆：山本亮、品川欣也、井出浩正、撮影：藤瀬雄輔、翻訳：レベッカ・ハーモン(以上、東京国立博物館)

デザイン・制作・印刷：三秀舎 編集・発行：東京国立博物館 ©2021 東京国立博物館 Tokyo National Museum